

相生っ子

○本年度の相生っ子のめあて
—あいさつ・言葉づかい・発表—



令和3年6月29日 相生小学校 校長室だより

第12号 文責：岩佐隆之

「あいおインコの願い」「もっと仲良くなれる合い言葉」を考えた人権集会

17日（木）は、人権集会。まず、担当教諭が「跳び箱が苦手な子」の話から「みなさんは、友達を笑う人ですか。『笑うな』と言う人ですか。『頑張れ』と言う人ですか。相生っ子全員が、『学校は楽しいな』と思う学校にするにはどうしたらよいかを考えてみましょう。」という質問を投げかけました。次に、本校のイメージキャラクター「あいおインコ」にまつわるクイズをハピースマイル・いじめストップ委員が出題し、「しっぽの四つ葉のクローバーは、みんなが幸せになるように作った」等、キャラクターに込められた願いを知りました。そして、スマイル班に分かれて仲良くなれる合い言葉を考え、発表しました。7月の委員会で、各班の意見をまとめて、合い言葉を作っていきます。中学や高校まで、今の仲間で過ごすことが多い相生っ子。互いの違いやよさを認め合い、みんなで協力して楽しい生活を送ってほしいと願っています。



○人権集会では、あいおインコが誕生したわけやおなかの虹色、しっぽの四つ葉のクローバー、しっぽの秘密などが知れて、一つ一つしっかり作られているんだなと思いました。その理由を、ぼくも初めて知りました。みんながいい気持ちになれるような理由なので、あいおインコというキャラクターはとてもいいなと思いました。1班で話し合った「みんな笑顔」は、相生っ子を世界一の笑顔にしたいからです。（6年）

恥ずかしかったけど、堂々と披露した4年生のミュージカル発表



18日（金）の朝のスマイルタイムは、4年生の発表の時間でした。音楽の時間に練習してきたミュージカルを、相生っ子全員の前で披露しました。恥ずかしかったけど、それぞれの役をしっかりと演じました。大声では歌えませんが、4年生10人の思いは伝わってきました。朝の会でやっているというゲームも楽しかったです。これからも、全学年が年に1回、「学年発表」をします。

授業参観の感想の続きを紹介します。ありがとうございました。（順不同です。）

<保護者>

○みんなが、元気に明るく過ごしている姿を見て、安心しました。大きな声で発表もできていて、コロナの影響もないような感じで、うれしく思いました。

○3年生になって外国語の授業が始まり、心配していましたが、授業参観で実際に授業を見ることができ、子どもたちもすごく楽しそうに外国語に触れ、取り組めていて安心しました。

○4年生の跳び箱は、みんな自由に、自分の得意な技を練習し披露していたのが、楽しそうで伸び伸びしていて、クラスのいい雰囲気が出てよかったです。6年生はさすが6年生で、保護者の聞き取れない英語もしっかり聞けているようで、感心しました。4年生も6年生も、先生がよく声をかけて、レベルアップの手伝いをしてくれていました。お世話になりました。

<相生っ子>

○金曜日、さんかん日がありました。今年は、そんなにはずかしくなかったです。何だか、慣れてきた感じがしました。つぎは、算数で「3年生だよ」というところを見せたいです。（3年）

（裏面もご覧ください。）

今年も、ふるさと学習の一環として、花育・木育・晩茶育に取り組みます

21日（月）のZoom朝会では、花育・木育・晩茶育のねらいや学年ごとの内容を紹介しました。「ふるさとを知り、よさに気づくなかで、感謝の気持ちを持ち、ふるさとを守り伝えようとする子どもを育てる」ことを目的としています。花育・木育は3年前から全学年、晩茶育は開校以来ずっと、3年生が取り組んでいます。いずれも、生産者の皆様や多くの関係団体のご理解、ご協力のもと、できている活動です。先日の「シャクヤクの生け花体験」の後、お礼の手紙をお送りしたところ、多くの生産者の皆様からお電話等をいただきました。ありがとうございます。今後とも、貴重な体験ができることに感謝し、皆様への気持ちを、態度や行動で表しながら、自分たちでできることは何か考え、実行していきたいと思えます。7月は、3年生が晩茶の摘み取りから茶葉の仕上げまで取り組み、4年生と6年生が「ケイトウのブーケづくり」を行います。



<相生っ子アラカルト>

- ・本年度の定期健康診断や血液検査が、全て終わりました。結果は保護者の皆様にお知らせしております。結果によっては、医療機関の受診や経過観察の場合もあります。お子様の健やかな成長のため、早めのご対応をお願いします。
- ・今回の「全国漢字能力検定」には、1年から6年まで8名の申し込みがあり、7月2日（金）に受検します。秋にもありますので、よければご活用ください。
- ・朝日小学生新聞に2人の俳句が載りましたので、紹介します。「JA アグリあなん」7月号には、「シャクヤクの生け花体験」の記事が掲載されました。また、県南部総合県民局制作の「那賀本」が発刊され、相生小学校が表紙や記事で紹介されています。機会があれば、手に取ってお読みください。

那賀本™

相生小学校

「花柳症」は、また季語として認知されてはいるが、スズ花柳が飛ぶ季節はまさに春。「ん」の鼻濁音に気配を感じるセンスが俳句的。

かふんしょう「ん」と言ったら鼻声だ

南島那賀町立相生小
4年 佐野心実

えんそくでねむったワニはかつこいい

徳島県那賀町立相生小
1年 籠田亜怜

はじめで 五七五

達・文 塩見恵介

俳人、甲南中・高（兵庫県芦屋市）国語科教師。同志社女子大俳句部委員担当。句集に『虹の雫』『泉こぼ』など。

イラスト・milkpillow

相生小学校 特産シャクヤクの生け花に挑戦

相生シャクヤク部会は5月18日、相生小学校の花育授業にシャクヤクを提供しました。3年生と5年生各14人が、シャクヤクのほか、産地のヒマワリやブルーディアも用いて生け花に挑戦しました。花卉生産部会は、児童らに相生地区の伝統産業である花卉栽培に興味を持ってもらい、花を身近に感じてもらおうと、花育活動に力を入れています。シャクヤクを生けた児童は「茎を切るのが難しかったけど、いろんな花を生けることができて楽しかった」と笑顔を見せていました。

（裏面もご覧ください。）